

安住寺だより



禅の心

第174号

発行 安住寺 (年4回発行)
 臨済宗南禅寺派
 大分県杵築市大字南杵築379
 〒873-0002 TEL0978-62-2680
 URL <http://www/anjuuji.net>
 編集 矢野明玄 2・3頁
 矢野玄徳 1・4頁

「苦」の中を生きる

「今日は何人？」日々、新型コロナウイルスウィルス陽性者の人数を気にしながら、日本中が右往左往しています。ワクチン接種は、始まりでしたがこのまま収束するとは思えません。春の陽気に誘われて多くの人が出歩けば更に感染が広がるのではないかと心配です。

オリパラ開催まで四か月を切りました。聖火リレーは始まりましたが東京都と近県のコロナ感染者が減りません。今の状況で開催できるのか？との心配の声も聞こえるようになりました。多くの関係者が悩ましい日々を務めています。「苦」の毎日でしょう。

一方、国内では人の移動が制限されているので、観光・飲食・イベント

春季煮縁供養

卒塔婆供養と施餓鬼法要は行いますが、説教会は中止致します

四月二十五日十時と午後二時の二座に分けて執り行います。参拝自由です。

※マスクの着用をお願いします

午後一時より 合掌会総会

(予定です)

ト関係など、多くの業種で日常の業務がままならず、僅かな協力金では「やっつけていけない」と倒産、廃業の危機だと悲鳴を上げています。



安住寺の聖観音像 中尾の桃と菜の花

そのような中、懸命に命と向き合い、病人の治療に従事されている方が大勢おられます。高齢者を預かる施設の職員も、過酷な勤務を強いられています。コロナに罹り入院をされていた方の、退院後の言葉がありました。

「先生に助けて頂きました。看護師さんは観音様のように見えませんでした」と。自分も罹るかも知れないのに、献身的に罹患者の世話をする姿に観音様を見たのです。まさに「苦」の中の救いです。

今年の三月十一日は、東日本

大震災から九十年でした。地震と津波の被災地は、懸命の復興事業が進められています。住宅地のかさ上げ、道路の付け替え等が進み見違えるようになりました。以前の町や風景を知らない人は、どこに津波が来たのか、と錯覚するでしょう。

街に建物が建ち、車の往来が戻っているのを見ると、随分と復興したように見えます。しかし、多くの人が亡くなり、以前のような人の繋がりが無くなったと聞きます。加えて新たな借金が増え、苦労するため生きています。多くの被災者の声が報道されていました。辛いことですが、人は皆、苦の中に生きて行かなければなりません。この世に生まれた宿命です。それでも遅く、支え合っていきたいのも人間です。



上は津波で被災した気仙沼魚市場付近。
H23.8.30撮



下は復興された魚市場(中央)とその周辺
R2.10.15撮

【春を迎えて】

境内の桜も、お寺の桜園の木々も満開となり、花の好季節となりました。

花々の中で特に香りの良い樹木に「三大香木」があります。秋の金木犀。夏の梔子。そして春は沈丁花です。

沈丁花の花の言われは、香りが沈香の香りに似ているからといわれております。

春は入学入社の時期で、夢や志をもって新たな道に進む季節でもあります。



本堂前の桜樹齢が若く一番に開花します。

修行道場でも掛搭(かとう)と呼ばれる入門の時期です。入門が許されるまでには、道場大玄関の敷居に一日中ひれ伏す庭詰(にわづめ)を二日間、その後、狭い部屋に案内され、一人坐禅三昧の旦過詰(たんがづめ)を四日、一週間近く修行への志を問われる期間を経て、漸く入門が許されます。

二十数年前、私が掛搭を願い旦過詰をした部屋の外に、沈丁花が植わっておりまして。ちょうど花満開で部屋中に香りが漂っていました。今でも沈丁花の香りをかぐと、あの時の初心そして緊張感を思い出します。

さて、三月十一日は東日本大震災から十年を迎え、追悼のテレビ番組が数多く放送されました。

その中で「釜石の奇跡・大川小学校の悲劇」が改めて取り上げられていました。

岩手県釜石市では、死者八百八十八人、行方不明者百五十二人の大きな犠牲の中、市内の小中学生三千人ほとんどが無事に避難し助かり。釜石の奇跡と言われた。

その一方、宮城県石巻市立大川小学校では、児童七十四人職員十人の八十四人が避難しきれず犠牲となりました。あとひと月もすれば新たな学年となっていただろう子供達です。

番組では、当時中学生で釜石の奇跡で助かった、震災語り部の菊池さんと、大川小学校の悲劇で娘さんを亡くした父親で、語り部の佐藤さんの、生き延びた苦しみと、失った悲しみが描かれました。お二人は苦しみ悲しみの中、震災後に語り部として立ち上がり、十年

後の今日も、強い意志をもって活動されています。その姿に改めて感慨を得ました。

昨年来私たちはコロナ禍に置かれています。感染状況はまだまだ一進一退で心配ですが、ワクチン接種も始まり、昨春入学式が行えなかった学生の為、今春改めて入学式を開催する大学があるなど、春の温かさと共に、少しずつ明るい話題も聞かれるようになりました。お寺の行事についても、感染が収束に向かう前提で準備してまいります。まだ検討段階の内容もございりますが、順次寺報等でお知らせいたします。ご協力お願いいたします。

☆新総代様ご紹介☆



前列左より、古田忠夫氏・須賀正廣氏(2名新総代)

前列右端、退任の清末静男氏(退任の西正文氏は欠席)

後列左より、是久幸雄・中村文三・松本文次・加藤傳藏・麻生哲治(5名再任)

【秘仏観音御開帳法要】

秘仏観音御開帳事業として、境内整備や諸堂の修繕をさせて頂いております。計画しておりました御開帳法要の日程が左記に決まりましたのでお知らせします。

○十月二十四日(日)

秘仏開扉法要(稚児行列)



平成23年、晋山式での可愛いお稚児さん。今ではすっかりお姉さんになったことでしょう。

○十一月二十三日(火・祝日)

秘仏閉扉法要(合掌会バザー)

*期間中行事

・十一月三日(文化の日)

チャリティーコンサート

法話会

【三先師合同法要】

○十一月九日(火)

第十五世玄海和尚五十回忌

第四世月叟和尚三百年忌

中興開山三室和尚三百五十四忌

萬壽寺・間閑窟・佐々木道一老大師をご導師に迎え執り行う予定です。

◇大分市高松・福寿寺閑栖

義岳貢道和尚様を偲んで

大分県南禅寺派第二十四部の大分市高松・福寿寺閑栖、義岳貢道和尚様が去る二月三日に八十歳で遷化され、三月二十二日に津送（本葬儀）並びに新忌斎（四十九日法要）が執り行われました。



温厚穏やかな和尚様の姿から色々なことを学ばせて頂きました。数年前のことですが、葬儀にお手伝い頂く役僧の和尚様が都合つかず、遠方ではありましたが、福寿寺の新命和尚様にお願いをしました。ところが、当日の葬儀にお見えになつたのは閑栖和尚様の方でした。聞けば新命和尚様は所用で留守

の為、代わりにお見え頂いたとのこと。お車を運転されない和尚様は、電車とバスを乗り継ぎ大変ご苦労をなさりながらお見え頂いたのです。新命和尚さんの留守を知らず、ご迷惑お掛けしたことをお詫びしましたら「いえいえ、お気になさらず」と穏やかにお答えくださったことを忘れません。

またある時、会合でご挨拶に立たれた和尚様が、「私は取り柄のない和尚であります、不自讃毀他戒（ふじさんきたかい）これだけは守り修行してまいった」とお話しされました。

不自讃毀他戒とは、讃は褒める、毀はそしるということですから、自分のことを誇らず他人をけなさない、そういう意味になります。

人の口に戸は立てられぬと言いますが、ついつい他人の悪口や噂話をしてしまうものです。また、自画自賛という言葉があります。自分の自慢話をしたり、手柄話をしたくなるものです。やればやるほどに醜さが際立ってくるというものです。傲慢して、他人をけなすという狭い見でなく、おほかでなければなりません。

言葉同様に貢道和尚様は常に穏やかで寛容でありました。不自讃毀他戒を姿で示された和尚様でした。

法句經に

「花の香りは、風にさからいて薫ぜず、されど、善き人の香りは風にさからいて薫ず、正しき人の香りは四方に薫る」とあります。

世の中には、その人がそばにいないだけで周囲がなごみ、明るくなるような雰囲気を持つ人がいます。

本当に徳のある人は、語らずともその人の品位はあらわれています。貢道和尚様の生前を偲び、記事にさせて頂きました。少しでも私の生き方の実践に出来ればと思います。

だるまおみくじ

臨濟宗は達磨宗とも言われます。この程達磨絵付けで活動する市内「8はち」の真砂さんの、だるまおみくじを観音堂に置きました。

観音さまに願掛けし、おみくじを引いて帰ってください。達磨の目は入っていませんので、願を掛けて片目、願いが叶ったらもう片目に墨を入れてください。



《日々是好日》

○一月十七日、中止となりました年始会を兼ねて、総代様、地区世話人様をご案内し、大般若祈祷会法要を執り行いました。八坂・千光寺和尚様と小僧三人も加わり、コロナ終息と日々の安寧をお祈りしました。○二月五日、市内千光寺様の大般若法要にお参り。○二月六日、福寿寺閑栖和尚様密葬○二月二十六日、役員総代会。来年度予算案並びに行事予定などにつきましてご協議いただきました。○三月七日、三年目となる杵築市人形供養祭の法要をお勤めしました。本年は五十二件の申し込みがあったそうです。昨今は断捨離ブームで人形以外のものでも、思い出しの品など供養を頼まれます。お気軽にご相談ください。○三月九日、南禅寺派部内会。来年度予定など確認。どのお寺様もコロナ禍の行事に思案されているようです。○三月二十日、彼岸会法要○三月二十一日、福寿寺閑栖和尚様、津送・新忌斎法要○三月三十日、木付講。開基木付親重公の祥月命日のご法要。○四月五日、合掌会の役員会の予定。○四月八日、降誕会法要「花まつり」今年も花御堂を飾り、本堂前で甘茶を準備しております。ご自由にお持ち帰りください。

住職合掌

秘仏観音と鏡

閑栖記

本年は、秘仏閻浮檀金観音像（えんぶだごん）の三十三年毎の本開帳の年に当たります。秘仏は、岩清水八幡より御神体を木付に迎えるに当り、神輿を守護するために授かったものです。柏島に大安寺を建て安置されました。何度も洪水により流されています。

慶長元年（一五九六）杉原殿が遊漁中に偶々発見し、旧地に戻し観音寺を再興したと縁起書にあります。その後、また洪水により流され、今度は八坂川の中から近くの住人が見つけました。その時は、松平英親公が城内の三島山に観音堂を建て、祀りました。ある時、殿様と当寺第二世雪溪和尚が「観音様は広く大衆の信仰を受けるべき」と同じ夢を見て旧地にもどされまし。それから三十三年毎に御開帳されるようになったのです。観音寺は、明治時代の廃仏毀釈により廃寺となり、本寺の安住寺が引き継ぎました。当寺の観音堂は、昭和四十年に焼失しましたが、秘仏は残

りました。焼けた観音堂には立派な聖観音像が祀られており、秘仏は本堂に安置されていたので無事でした。昭和五十四年にお堂が再建された後は、堂内に秘仏としてお祀りしています。玄海和尚の代から数えて、本年が丁度本開帳の年に当たるという事です。



文政5年(1822)2月吉日
玉屋利賀様の奉納

当寺には、裏面に「安住寺南無観世音菩薩」と刻字された鏡が二面現存します。観音像は、秘仏であるためにお姿を拝することが出来ません。そこで、立派な鏡台もあることからお像前に置くことになりました。古来より、神仏習合思想から仏教にも鏡が法具として使われています。鏡は、物の本質をありのままに照らし出す象徴として置いています。観音様の前では、素直な心で手を合せて下さい。観音様は全てをお見通しです。

今号をもって

閑栖は、寺報の編集を終わることとします。昭和五二年夏より寺行事のお知らせを目的に始めました。平成一九年夏より二人で分担、新任職も十年になりましたので区切りと致します。



3月27日、例年より早く満開になりました。

タイムカプセル収納品

追加募集のお知らせ

昨年春、二十五年ぶりにタイムカプセルを開封し、一部のみに中身の確認をして頂きました。追加の収蔵品を募集する予定でしたが、コロナ騒動でお知らせが出来ませんでした。今回更に期間を延長して本年中に受け付けることにしました。

◇行事予定◇

- 四月八日・降誕会（花祭り）
- 四月十日・早朝坐禅会
- 四月十七日午前中・観音講
- 四月二十一日・写経写仏の会
- 四月二十四日・早朝坐禅会
- 四月二十五日・卒塔婆供養・施餓鬼
- 四月二十五日一時・合掌会総会
- 五月二十八日・総代会（決算）
- 五月二十八日・世話人会（決算報告）

坐禅会 基本・第二、四土曜日
四月より朝六時から

写経の会 五月21日 六月21日

独秀流御詠歌は休会中です

都合により変更することがあります。

現在の身の周りの状況や最近の出来事、自分が感じていること子供や孫達に、或いは広く世間に伝えたい事等を記録してみませんか。写真や印刷物等でも構いません。角形A4号か長形3号の封筒に入れ、表に宛名を、裏面に自分の名前と日付を記入して下さい。次は、二〇四五年に開封することになるかと思えます。それぞれ何を考え、どの様に生きていくかを伝えましょう。多数のご参加をお願い致します。

担当・閑栖